

第 16 回日本成長学会「抄録」

ジュニア競泳選手の身体組成の年齢変化

演題名

演者 (○印) 及び
共同発表者

○渡邊 將司¹
高井 省三²

所属

1. 筑波大学大学院 人間総合科学研究科体育科学専攻
2. 筑波大学大学院 人間総合科学研究科

競泳は低年齢から専門的なトレーニングが行なわれているスポーツのひとつである。子どもの身体組成は身体活動によって変化することが報告されていることから、定期的な競泳トレーニングを行なっているジュニア競泳選手の身体組成は一般の子どもとは異なる発達パターンを示すことが予想される。そこで本研究は 10 歳から 17 歳の競泳選手と一般の子どもとの身体組成の年齢変化の違いを明らかにする。

競泳選手は、つくば市および水戸市周辺のスイミングクラブの選手コースに所属する男子のべ 307 名、女子のべ 330 名である。彼らは週に 3 回以上の定期的なトレーニングを行っていた。一般の子どもは茨城県内の児童・生徒、男子 636 名、女子 298 名で、服部ら (2005) のデータを参照した。調査項目は、体脂肪率、脂肪量、除脂肪量であった。体脂肪率は北川ら (1988) と戸部ら (1998) の式を用い、年齢、上腕三頭筋部皮脂厚、肩甲骨下皮脂厚から推定した。一般群と競泳群の身体特性の差の検定には対応のない t 検定を用いた。

男女とも体脂肪率、脂肪量は、両群とも年齢とともに増加するが、10~17 歳を通して競泳群のほうが小さかった。除脂肪量も体脂肪率、脂肪量と同様に、両群とも年齢とともに増加するが、両群間に差はないことがわかった。

〒305-8574 茨城県つくば市天王台 1-1-1

連絡先

筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻
電話 029-853-2760 F A X 029-853-2760
E-MAIL masashi@biking.taiiku.tsukuba.ac.jp